

## 嫌われる行政になる

### ★

野良猫や迷い犬などの保護において、「熊本方式」と呼ばれる、犬猫の殺処分数をゼロにする取り組みが全国から注目されている。熊本市動物愛護センターは、犬猫を殺処分する数が、全国の類似施設に比べてダントツに少ない。以前は年間数百頭を引き取り、その多くがガス室で殺処分されていたそうだが、今は引き取る数自体が10分の1になり、里親探しを徹底しているので、重い病気などを理由に注射で安楽死させることを除いて殺処分はしていないそうだ。

では、なぜこんなことができるようになったのか。理由は簡単で、犬猫を簡単には引き取らないからだ。例えば、「引っ越しすることになり、今度はアパート住まいになるので犬を連れて行けない、引き取ってください」と言われても（これは、殺処分の暗黙のお願いだ）、愛護センターでは、簡単には引き取らない。飼い主に、里親を見けるよう要求する。まず、家族や親戚、知人や近所の人、それがダメならタウン紙に里親募集の広告を出すようアドバイスし、そのとおり努力しない相手には決して妥協しない。万策尽きと認めた場合にのみ引き取る。

こうした対応に、「そんなことをしたら捨て犬を増やすだけだから、ちゃんと引き取れ」といった趣旨の批判をする人もあるそうだ。犬猫を引き取り、殺してくれる愛護センターであれば、一部の市民に大いに好かれる。そして、多くの市民にとって実は都合がよい。だが、それはすまい、してはならないと決めて一歩も引かない。「嫌われる行政になる」が合言葉だ。

### ★★

子飼商店街にあるトトハウスの事務所前でも、毎月1回（第二火曜日）に、動物愛護相談会が開かれる。愛護センターの獣医師とボランティアが来て、町内会での野良猫問題やペットの躰けや病気について相談を受ける。もう3年くらい続いている。

この相談の様子を傍で見ていて、いろんなことが分かってきた。その中で一番重要なことは、「犬猫はあくまで犬猫であって人間ではない。ペットを擬人化して考えると判断を誤る」ということである。例えば、迷子の子猫ちゃんは、すぐに拾ってはいけない。なぜなら、その子は、親がくわえて移動する途中で落とした可能性があるから、親が捜しに来るのを待って、十分見極めたうえで保護しなければならない。迷子の子猫ちゃんを保護するかどうかは、心が冷たいかどうか、見て見ぬふりをできるかどうか、生きるも死ぬも運命だとして達観したふりができるか、・・・そうした人の心を測る問題ではない。まず、親猫が子を取り戻しに来やすいような状況を作ってあげることが先決だ。

### ★★★

「犬猫を引き取らないでください！」と、動物愛護ボランティアの市民が、かつて動物愛護センターに申し入れたそう。その時のセンター職員の反応は、「引き取るのが行政の仕事ですから」だったそう。もちろん職員は、つらい立場で、悔しい思いで、そう言わざるを得なかったことだろう。獣医師を志した人たちが動物をガス室に送る心境は、察するに余りある。

熊本市動物愛護センターの目覚ましい成果、職員の断固とした態度表明の裏には、実は、上記のボランティアの働きがある。ボランティアが犬猫の世話や里親探しなどに協力するから殺処分をしなくて済んでいるのだ。犬猫の引き取りに関して「嫌われる行政になる」ことは、絶対に正しいことだと思う。しかし、行政にのみそうした態度を期待し、市民は何もしないというのでは話にならない。「嫌われる行政」は、市民の協力なくしては成り立たない。市民協働というのは、つまるところ、そういうことなのだろう。

★おまけ★

商店街で、二度捨てられた子猫。

商店街には、捨て猫が多い。エサヤリさんもいるし、人通りも多いから、なんとか生きていけるだろう、と思うのかどうか？・・・とにかく、猫を捨てていく人が後を絶たない。

この子も、一度は、そうした心ない人に捨てられたようだ。そして、商店街でなんとなく保護されたような・されないような感じで、ダンボール箱がたらい回しにされ、私が夜遅く事務所に帰ってきたら、事務所の前の空き地でミャーミャー鳴いていた。この子は、少なくとも二度捨てられたわけだ。

膿のような目ヤニで目はふさがり、鼻炎で鼻はグシュグシュ。翌朝まで生きていたら病院に連れて行こうと決め、保護した。昨年の初夏のこと。

運と生命力はあったようで、元気になり、里親（二十歳そこそこの女性）も見つかり、今は東京暮らしをしている。（膝に乗った写真）

保護した時の体重は約 450 グラム。3週間ほどで体重が倍になった。

おなかいっぱい食べたという顔は、人の子も猫の子も同じで、これ以上幸せな表情はない。

それにしても、超未熟児の人間の赤ちゃんが、700 とか 800 グラムで生まれて無事成長するというが、このネコさんよりも体重が軽いのかと思うと、ちょっと信じられない。

